

【23_075思考系メルマガ】それって本当に機会損失なの？

〇〇さん

こんにちは、クロです。

「機会損失」にお悩みの方が多いようで、この手の質問をメールでもらったときにはそれに対する僕の見解を回答する前に、質問主さんに必ず1回確認をしています。

それは、「どんな状況を“機会損失”と捉えたか？」ということです。

すると、おおかた返ってくる答えには傾向があるので

一番多いのは「見送った⇒大きく伸びた⇒あの時エントリーしていれば・・・」という一連の流れをいわゆる「機会損失」とみている人が多いようでした。

ですが、これは僕に言わせれば機会損失などではありません。

□
■ 先の値動きは、誰にもわからない

本当に何度もしつこく言いますが、『この先どのように値が動くのか』を先読みすることが分析ではありません。そんなことは不可能なのです。

自分が自分の規則に従ってその日のトレードを『見送り』と判断したのであれば、その型に従ってトレードするうえではそれが正解であり

その型で最終的に利益をしっかりと残せるかどうかは、これらの一貫した判断と結果による積み重ねによって判断します。

見送った結果、その後大きく値が動いて「あの時トレードしていればこの利益を得られたはず」など考えるのは、自分の『型』を軽視することと同じです。

その時はそれで実際に利益になったとしても、そのトレードが普段の一貫性に基づいた判断ではなかったのなら

そこで得た利益を守る術がなく、結局その後どこかのトレードでその利益を失うことになります。

一貫性のないトレードというのは、勝つ理由にも負ける理由にも一貫性がないということなので

大きく勝ちに偏る可能性がある一方で、同等に大きく負けに偏る恐れに延々憑りつかれることになるわけです。

相場を見るときは、つねに『確率論的』に捉えることで、いつも自分のトレード(見送りも同じ)の根拠は一貫していること。

それによって得られた勝ち負けの結果から、負けの原因の傾向をひたすら潰し

勝ち負けを繰り返しながら『利が残る方に偏っていく』ように運用していくのが、本来の在り方です。

このあたりの考え方の原理として説明されているのが、昔のメルマガなどでも紹介した『確率論的思考』という書籍です。

▼書籍の詳細はコチラ▼

<https://www.kinokuniya.co.jp/f/dsg-01-9784534046116>

電子版もあるので、是非一度ひと通り読んでみることをおすすめします。

書籍内には、直接的に「機会損失とは？」といった分かりやすい解説は無いのですが

一般的に「機会損失」と思い込んでいるものが、実際にはただの幻想にすぎないものであるという

今日のメルマガで言及した内容に関連する説明を、より詳細なメカニズムで解説されています。

相場は確率論的に見なければならないからこそ、自分の中に定めた『基準としての型』が大事なのだと理解してもらえたら幸いです。